

倒伏させない穂肥を!!

高温の影響で生育が進み、草丈は長くなりました。葉色は淡くなっており、ほ場間差が大きい状況です。適切な穂肥診断で、倒せずに葉色を維持しましょう。

1 7月10日現在のコシヒカリ生育状況（拠点12地点平均、移植日平均5月10日）

草丈（長） 茎数（並） 葉数の進み（並） 葉色（淡、バラツキ大）

	本年値	指標比・差
草 丈（cm）	72	114%
茎 数（本/㎡）	495	103%
葉 数（葉）	11.2	+0.2
葉 色（SPAD 値）	33.3	-2.7

2 コシヒカリの管理ポイント

(1) 分施の穂肥（1回目：出穂期20日前、2回目：出穂期12～10日前）

ア 出穂期の20日前頃の草丈が長く（75cm以上）葉色が並～淡い（SPAD値33未満）場合、施用量を減らし2～3日程度遅らせる。草丈が長く葉色が濃い場合は施用しない。

イ 2回目の穂肥は「必ず施用」する（1回目ができない場合でも）。

(2) 一発基肥の追肥（出穂期12～10日前）

ア 早期梅雨明けや猛暑等により葉色が著しく低下する場合（SPAD値30以下）は追肥する。

※ 詳しくは佐渡米カレンダー（7月）を参照。減減栽培は化学窒素成分量超過に注意。

JA佐渡各営農窓口で葉緑素計（SPAD）を貸出中！葉色を確認しましょう！

3 その他の管理ポイント

(1) 中干しは出穂期の30日前をめやすに終了し、飽水管理を行う。中干し開始が遅かったほ場でも、幼穂形成期（出穂期の23～25日前）には中干しを終了する。

(2) 高温年は斑点米の多発が懸念されるので、一斉草刈り期間中（7/14～26）に必ず草刈りを実施する。

(3) 1回目の穂肥が施用できない場合など、倒伏が心配される場合は、倒伏軽減や高温時の登熟向上効果のある、ケイ酸質資材を活用する。

農作業時はこまめな水分補給・休憩で熱中症を予防しましょう！